

練馬区この1年

令和7年4月～令和8年3月



令和8年3月 北庁舎オープン

7年4月

1日 光が丘医療福祉プラザを開設

光が丘2丁目の練馬光が丘病院跡施設を活用し、区内初の医療と介護の複合施設である「光が丘医療福祉プラザ」を開設した。区内初となる緩和ケア病床、介護医療院のほか、介護福祉士養成施設等によって構成する。医療機関や介護事業所と連携し、入院から在宅生活に至るまで切れ目のない医療・介護サービスを提供する。



建物外観

1日 小・中学校全校と区立施設に実質再エネ100%の電力を導入

区立施設等から排出されるCO₂排出量を削減するため、区役所練馬庁舎（6年度導入）に加えて、新たに区立小・中学校全校（改修・改築中の5校を除く）および区立施設71施設の計164施設へ、実質再エネ100%電力を導入した。

1日 「ねりま羽ばたく若者応援プロジェクト」始動

児童養護施設や里親のもとで育った若者の不安を解消し、自立を支援するため、都内で初めて、都児童相談所連携型の社会的養護自立支援事業「ねりま羽ばたく若者応援プロジェクト」を開始した。

生まれ育った環境によらず、自らの意思で希望する未来を切り拓いていけるよう、生活の支援、居場所の支援、周知・啓発事業を実施する。

1日 新たな寄付メニュー6件を創設

区の取組を応援してもらうため、新たに6件の寄付メニューを創設した。このうち、「全国都市農業フェスティバル2025を応援」、「新美術館・図書館をみんなでつくろう」、「平成つつじ公園リニューアルプロジェクト」については、目標額を設定したクラウドファンディング型として募集し、「ねりま羽ばたく若者応援プロジェクト」、「医療的ケア児・障害児とその家族を応援!」、「ひとり親家庭の子ども達を応援!体験格差解消プロジェクト」については、目標額を設定しない形で募集した。

21日 練馬区住まいの防犯対策緊急助成事業を開始

地域の防犯意識向上と対策強化を推進していくため、防犯カメラやカメラ付インターホンなどの防犯対策物品を購入・設置した人へ、費用の一部助成を開始した。

5月

14日 練馬区母子保健オンライン相談を開始

妊娠や子育ての不安・悩みなどをいつでも気軽に相談できる、24時間365日のメール相談「いつでも相談」、区役所閉庁時間のビデオ電話やチャットによる「夜間オンライン相談」、助産師とのチャットによる「日中オンライン相談」を開始した。

27日 ICT機器を活用した在宅介護の負担軽減のためのモデル事業を開始

在宅介護サービスを提供する事業所職員および利用者本人・家族の負担軽減のため、睡眠状況をリアルタイムに把握できるICT機器を活用したモデル事業を開始するにあたり、区、練馬区介護サービス事業者連絡協議会、パラマウントベッド（株）の三者で協定を締結した。

6月

9日 第77代区議会議長に上野ひろみ氏、第79代副議長に鈴木たかし氏が就任

新議長に上野ひろみ氏（自民党）、新副議長に鈴木たかし氏（公明党）が選出された。

7月

1日 「こども誰でも通園事業」を試行実施

8年度から全国で本格実施する「こども誰でも通園事業」(※)について、区独自に対象年齢や利用時間の拡大を行い、区内保育所・幼稚園の計10か所で試行実施を開始した。

※こども誰でも通園事業：

保護者の就労要件を問わず、0歳児から2歳児までを定期的に保育所等で預かる事業



区内の幼稚園で実施の様子

7日 「いきいきコスメプロジェクトねりま」に係る連携協定を締結

ひとり親家庭や生活困窮、DV・児童虐待により居場所がないなど困難な問題を抱える女性等の社会参加や自立促進に繋げるため、(一社)バンクフォースマイルズと協定を締結し、化粧品等を詰め合せたコスメギフトを無償配布するプロジェクトを開始した。

22日 区立学童クラブに昼食配達のサービスを導入

保護者の負担軽減を図るため、夏休み期間の平日に、保護者の注文に応じて昼食(弁当)が配達されるサービスを区立学童クラブ27クラブ、区立ねりっこ学童クラブ62クラブに導入した。また、8年3月の春休み期間の平日には、民間学童クラブ3クラブにも導入した。

8月

1日 区の人口が75万人を超える

独立78周年となる8月1日時点の区の登録人口(住民基本台帳に登録された人口、外国人を含む)が750,022人となり、75万人を超えた。

20日 物価上昇に直面する介護・障害・保育事業者等に給付金を支給

都が行う物価高騰緊急対策支援金とあわせた区独自の緊急対策として、物価上昇に直面する介護・障害福祉サービス事業所や教育・子育て施設の負担軽減を目的に、予算総額約3.2億円の「施設等運営支援臨時給付金」の支給を決定した。

21日 新美術館・貫井図書館のパネル展を開催

区立美術館・貫井図書館の改築と周辺のまちづくりを行うプロジェクトの一環として、新しい美術館・図書館の設計をはじめとする再整備の取組を、8月28日まで区役所アトリウムでパネルや模型、動画を用いて紹介した。

9月

16日 区の魅力発信動画「かとしとさがす“ねりま推し”」を公開

区とゆかりのある元日向坂46の加藤史帆さんを起用したショート動画シリーズ「かとしとさがす“ねりま推し”」をInstagram「ねり丸の#ねりま推し」で公開した。

「農業」「公園」「文化・芸術」をテーマにした計3本の動画で、区内の小学校を舞台に、加藤さんと小学生が練馬の魅力を再発見するストーリーとなっている。8年3月31日をもって配信を終了した。

10月

1日 ひとり親家庭向け学習クーポン事業を開始

ひとり親家庭の学習の機会を確保するため、児童扶養手当受給世帯等のうち、中学校1・2年生、高校1・2年生の生徒を対象に、区に登録された学習塾や家庭教師などに利用できるクーポン方式による助成事業を開始した。

19日 「ねりまスポーツひろば」を開催

東京2025デフリンピック機運醸成イベントとして、「ねりまスポーツひろば」を練馬総合運動場公園で開催した。デフ卓球日本代表の山田瑞恵選手によるトーク&デモンストレーションや様々なスポーツを体験できるコーナーを設置した。同日夜には約3,000人の来場者がランタンを打ち上げる「ねりまランタンナイト」も開催した。



イベントの様子

21日 感震ブレーカー購入費の補助事業を開始

6年度から避難行動要支援者や防災まちづくり事業実施地区内の木造住宅世帯に対して感震ブレーカーの無償貸与を行っている。大規模地震時の出火防止対策をさらに強化していくため、区内全域の木造住宅世帯を対象に、感震ブレーカー購入費用の一部を補助する事業を開始した。

11月

10日 粗大ごみ収集の運搬システム構築に関する連携協定を締結

収集運搬体制の持続可能性向上を目指し、DXを活用した粗大ごみ収集運搬業務の効率化と円滑化、作業員のスキル平準化に関する実証実験を行うため、小田急電鉄（株）と連携協定を締結した。小田急電鉄（株）は区の委託業者が運用している粗大ごみ受付システムとの連携が可能であることから、実証実験を通じてシステム開発を行い、その後、運用開始を予定している。

11日 手話通訳者による「電話代理支援サービス」を開始

聴覚等に障害のある人が通訳コールセンターを介して区役所や区立施設等に電話で問い合わせができるサービスを開始した。ビデオ通話を受けたオペレーターが区役所に電話をかけることで双方のやり取りをリアルタイムにつなぐ。手話のほか筆談や文字チャットによる問い合わせにも対応する。

15日 「全国都市農業フェスティバル2025」を開催

全国から32自治体が参加し、15・16日の2日間にわたり都立光が丘公園等で開催した。練馬大根や参加自治体による農産物の販売、特産物等を使用したメニューを提供するキッチンカーの出店、親子で楽しめるワークショップ、農業者とスペシャルゲストによるトークライブ等が行われた。2日間で約75,000人が来場した。



農産物販売の様子

16日 障害児を兄弟姉妹にもつ子ども（きょうだい児）を対象に新たな支援事業を開始

孤独感や精神的な負担を感じやすい傾向にあるきょうだい児の不安を解消し、家族を支援するため、小学生以下の子どもを対象に、きょうだい児同士の交流を目的としたレクリエーション活動と、主に中学生以上を対象に、きょうだい児と同じ経験を持つ相談員（ピアサポーター）による相談事業を開始した。

20日 練馬区獣医師会および（学）立志舎と連携・協力に関する三者協定を締結

練馬区獣医師会および（学）立志舎と、動物分野での連携・協力に関する三者協定を締結した。協定に基づき、三者が連携してペットの適正飼育やマナーアップなどの啓発に取り組むほか、災害時のペットの保護・管理体制を強化する。



協定締結式

22日 「ねりまママパパてらす講座」を開始

子育て中のママやパパが講師となり、子ども・子育て家庭向けに実施する自主講座などを支援する新たな取組として、「ねりまママパパてらす講座」を開始した。

3月21日には、地域とのつながりを広げ、子育てを支え合えるよう、子育て支援団体や地域で活動する保護者などが集まる「ねりまママパパてらす 子育て応援フェス 2026」を区民・産業プラザで初めて開催した。

12月

22日 東京2025デフリンピックメダリストに練馬区民栄誉賞を顕彰

東京2025デフリンピックでメダルを獲得した区にゆかりのある4選手に練馬区民栄誉賞を顕彰した。陸上の山田真樹選手、空手の森こころ選手、卓球の山田瑞恵選手、サッカーの原口凌輔選手が受賞し、区役所で顕彰式が行われた。



区役所アトリウムでの出迎えの様子

26日 物価上昇に直面する区民・事業者支援として総額約59.5億円の補正予算案を可決

令和7年第一回練馬区議会臨時会が開催され、「令和7年度一般会計補正予算案（補正第3号）」が原案どおり可決された。

低所得世帯への給付金、物価高対応子育て応援手当および施設等運営支援臨時給付金の支給や、キャッシュレス決済ポイント還元事業、住まいの防犯対策費助成など総額59億5,281万2千円を計上した。

8年2月

1日 外国人介護職員向け交流会を開催

区民・産業プラザのココネリホールで、区内の介護・障害福祉サービス事業所や病院で働く外国人介護職員向けの交流会を初めて開催した。事業所内での意思疎通が難しいと感じることが多い外国人介護職員が、地域で孤立することなく、安心して働き続けられるよう親睦を図ることで、介護人材の確保・育成・定着を目指す。

24日 民間ビルを借用し北庁舎をオープン

区民サービスの充実と業務量の増大に伴う執務スペースの確保のため、民間ビルを借用し、一部組織を移転しオープンした。



オープンした北庁舎

3月

22日 「ねりまみどりフェスタ」を初開催

区内の憩いの森等で活動する団体や、みどりに関わる事業者など18団体と協力して、みどりや生きものと直接ふれあい、練馬のみどりの魅力を感じられるイベントを都立光が丘公園で初めて開催した。



フェスタの様子

24日 使用済み食用油の資源化促進に関する協定を締結

区が回収した家庭や区立小・中学校から排出される使用済み食用油を全量、持続可能な航空燃料（SAF）に資源化するため、「持続可能な社会の構築に向けた使用済み食用油の資源化促進に係る連携および協力に関する協定」を、国産SAF製造・供給等を行う日揮ホールディングス（株）、（株）レボインターナショナルおよび（同）SAFFAIRE SKY ENERGYと締結した。

※ SAF：

Sustainable Aviation Fuel の略。使用済み食用油、サトウキビなどのバイオマス燃料、廃棄物などを原料とするジェット燃料



豊玉リサイクルセンターに置かれている回収ボックスの様子

26日 日本大学芸術学部と連携して制作した区内事業者のPR動画を公開

区内中小企業等の魅力的な商品やサービスの積極的な情報発信を支援するため、日本大学芸術学部と連携し、学生視点や若者の柔軟な発想を取り入れたPR動画を制作した。7年度は、練馬ビジネスサポートセンターホームページ内の事業者情報発信サイト「ねりまPRチャンネル」で4本の企業PR動画を公開した。



動画制作の様子

27日 災害時に発生する廃棄物の処理に関する協定を締結

災害時に発生する廃棄物の処理の実効性向上に向け、車両等の供給、仮置場の監理・運営、資機材（敷鉄板）の供給について協力体制を確保するため、災害時に発生する廃棄物の処理に関する協定を4者（東京都環境衛生事業協同組合練馬区支部、練馬区リサイクル事業協同組合、（一社）東京都産業資源循環協会、江戸鉄（株））と締結した。